

ドラゴンハイパー・コマンドユニットの概要

(資料1_別添2)

車両概要

石油コンビナート火災等に対応する精鋭部隊として、緊急消防援助隊にエネルギー・産業基盤災害即応部隊(ドラゴンハイパー・コマンドユニット)を創設(平成30年度までに全国12部隊を配備)。

その中核車両となる、遠距離(1km)への大容量送水(4,000ℓ/分)及び放水(最大8,000ℓ/分)が可能な特殊車両。

車両諸元

【大型放水砲搭載ホース延長車】

- ・全長9.0m以下
- ・全幅2.5m以下
- ・全高3.8m以下
- ・乗車定員2名



【大容量送付ポンプ車】

- ・全長9.0m以下
- ・全幅2.5m以下
- ・全高3.8m以下
- ・乗車定員3名



積載資機材

| | |
|-----------------|----------------|
| 耐熱服 5着 | 低反動型ノズル 2式 |
| 可搬式放水銃 1式 | 熱画像直視装置 2式 |
| 特定省電カトランシーバー 5基 | 4Kウェアラブルカメラ 2台 |
| 4Kタブレット 1台 | 空気呼吸器 5基 |



耐熱服



放水銃



熱画像直視装置



低反動型ノズル



4Kウェアラブルカメラ

ドラゴンハイパー・コマンドユニットの配備

全国の地域ブロック6ブロックを基本として、石油コンビナート等災害防止法施行令に定める区域に指定されている12地域に配備先を選定。

| ブロック名 | 都道府県 |
|--------|------------|
| 北海道・東北 | 北海道(苫小牧市) |
| | 新潟県(上越市) |
| 関東 | 千葉県(市原市) |
| | 神奈川県(横浜市) |
| 中部 | 静岡県(静岡市) |
| | 愛知県(名古屋市) |
| | 三重県(四日市市) |
| 近畿 | 大阪府(堺市) |
| | 兵庫県(神戸市) |
| 中国・四国 | 岡山県(倉敷市) |
| 九州 | 福岡県(福岡市) |
| | 鹿児島県(鹿児島市) |



ドラゴンハイパー・コマンドユニットの具体的運用

任務(基本計画)

・エネルギー・産業基盤災害即応部隊は、石油コンビナート、化学プラント等エネルギー・産業基盤の立地する地域における特殊災害に対し、高度かつ専門的な消防活動を迅速かつ的確に行うことを任務とする。

部隊編成(基本計画、運用要綱第5条、応援通知)

エネルギー・産業基盤災害即応部隊長

・消防機関の推薦に基づき、長官が別に定め、指揮隊を編成(現状:四日市市消防本部、市原市消防局)

エネルギー・産業基盤災害即応部指揮隊

特殊災害に知見を有し、指揮及び情報の収集伝達・通信等を担当する隊員4人以上で編成

特殊災害中隊

消火中隊

大容量送水ポンプ車・大型放水砲車、
大型化学車・大型高所放水車・泡原液搬送車(3点セット)
で編成される小隊を必ず加える

特殊装備小隊

水上小隊

後方支援小隊

通信支援小隊

化学消防ポンプ自動車で編成される小隊を必ず編成に加える

・「都道府県大隊の出動を伴わずに単独で出動」や「都道府県大隊を構成する小隊として出動した後に別命を受け、エネルギー・産業基盤災害即応部隊を編成し、都道府県大隊とは、別の被災地に出動すること」等、災害状況に応じた柔軟な対応を考慮

・特殊災害に対する消防活動の経験が豊富で、高度かつ専門的な知見を有する消防本部で編成

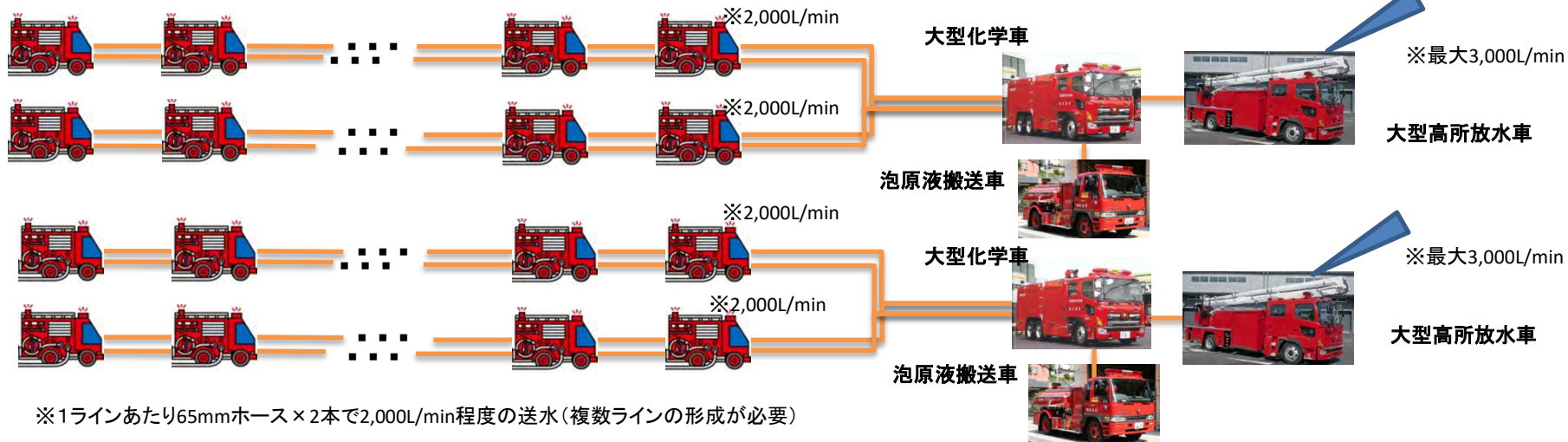
必ず編成

地域の実情に応じて編成

ドラゴンハイパー・コマンドユニットの部隊編成

従来

課題: ①多数の車両・人員による中継、②火災規模によって放水量の不足



自然水利

ドラゴンハイパー・コマンドユニット



大容量送水ポンプ車
(無償使用車両)

※自動調圧機能等の活用により安全に送水(監視のための人員配置が不要)

※1kmの遠距離送水が可能



泡原液搬送車(既存車両)

※0.7MPa~1.0MPaの圧力で
6,000L/min~8,000L/min程度



大型放水砲搭載ホース延長車
(無償使用車両)

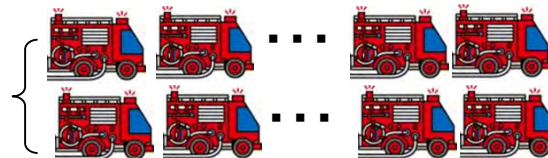
※最長100m程度先の火点に対し、
最大8,000L/min程度の大容量放水が可能
※3点セットの活用も可能

POINT②

遠距離から大容量の放水が可能
→効果的な延焼防止・迅速な消火が可能

POINT①

少ない車両・人員で遠距離・大容量の送水
→より多くの車両を市街地等の災害対応に投入可能



自然水利